

ネイチャーセンター ガイド (107)

「失敗をこわがる子どもたち」

先日、とある学校で凧づくりをした。説明はいたって簡単で、完成図を見てもらい、作り方のポイントを伝えたまじだった。

私はこの凧づくりの時間を通して、完成図に似せるためにはどのようにしていけばいいのかを考えてほしいので、くどくどとも親切丁寧に説明はしない。つまり、友だちや指導員に聞き、友だちや指導員がやっている技術を「ぬすみ」、自分から挑戦をしてほしいから、ただそれだけのねらい。

それから、成功したら喜びも表現し、誰かに伝え、喜びだけに終わらず成功した技術を誰かに伝えることで、また、喜びを感じられるのだ。失敗したらしたでもう一回挑戦。どこで、どこが失敗して、次にこうして、ああしてみれば成功するかもしれないとドキドキしながら、挑戦してみる。失敗は取り返せることを学んでほしいのだ。

凧を完成させてあげることも大切なことなのかもしれないが、もっと大切なことがあるのです。切って張るだけ、糸の調節もしなくていい「キット製品」では味わうことができない「良さ」が手作りの遊び、自分で作る遊びにはあるのです。そしてこの「良さ」は2、3日後に役に立つのではなく、これから生きていくために自分自身に役に立つのです。つまり社会で生きていくためや、自立していくために役に立つのです。楽しいだけの体験は体験じゃありません。喜怒哀楽の感情が織り交ざり、そこに我慢したり、待ったりすることがあるからこそ味のある「楽しい」という感情が芽生えるのです。

世の中、目に見えるものだけが評価されがち、目に見えない感情、気持ち、考えは評価されな



い時代になりました。それと同時にお金やものの価値もあいまいになってきています。

体験も体験の内容も楽しいだけですませ、「その場だけしのげればいいや」という安易な考えで、行なわれる傾向が目立ち、これでは単に大人や主催者の自己満足に過ぎません。子どもたちの将来や自立を促すために考えた内容であるかどうかを再確認し、子どもたちの成長や将来にとって役立つものでなければなりません。

子どもたちは大人をよく観察しているし、大人は観察され真似されるという認識を持たずして、子どもを指導しては危険です。大人は子どもの心をもっと知るべきです。大人の言う通りに動くのが子ども、言うことを聞かないなら罰を与える、手を上げる、そんな一方的服従を強要するのではなく「なぜ？ そうなのか」をきちんと大人が教えてあげなくてはいけないのです。子どもの目線にあわせ、親身に対応してあげることが重要です。

人間臭く、熱く、泥臭く、自分をさらけ出し、表現すればいいのです。ありのままの自分をさらけ出せばいいのです。子どもたちの話を聞けばいいのです。頭ごなしに反論したり自分の意見を押しつけず、ただ聞くだけでいいのです。その行為が子どもたちを受け入れたこととなります。大人が動き出したり、言葉を発するのは、子どものサインを感じてからでいいのです。

大人たちの一方通行が目立つのは、わたしだけでしょうか？ そろそろ交互通行したほうがいいのでは……。右が大人、左が子ども、そして真ん中のラインは心と心をつなぐ、信頼ライン。このラインが今は透き通って見えないのは、大人も子どももいっしょ。

意地をはらず、さらけだせ、自分を、おとなも子どもも。

連絡・問合せ先 ☎(45)6222
室の山ふれあいの里ネイチャーセンター
開館時間：午前9時から午後4時まで
休館日：月曜日、祝日の翌日